

特集



格レプリカ(なぎヒカリアミュージアム提供)  
出上がったプレストスクスの復元画と全身骨

# 復元画は研究、観察を基に

「ワニみたいに足が横に出るのではないよ。下に出るんだよ。足跡化石ではそうなっている」

「わりと一直線上を歩くとこのこと？」

私と卒論の指導をしていた門嶋陸君が議論をしています。2人の前には2億3700万年前のブラジルに生きていた肉食の爬虫類プレストスクスの復元画があります。当時のブラジルは恐竜が出てくる直前の世界。いろいろな爬虫類がしのぎを削る中で、ひときわ目立った大型動物がプレストスクス。門嶋君は卒業研究でその復元画に取り組んでいるのです。プレストスクスはワニの親戚。でも水中に適応した現在のワニとは、歩き方が違う。足跡化石を知る私はそこにごたわりです。

「植物化石の産出が少なくて…」  
今度は背景の悩み。

「花の咲く植物はまだない。シダ類とイチョウ類はある。大学構内にもあるから観察して」と励まします。

センスや想像だけでは正確な絵は描けません。レオナルド・ダビンチが人体解剖まで勉強して絵を描いたように、門嶋君は、ワニの解剖学を勉強し、現在の爬虫類の皮膚や体の色も調べました。化石の論文を読み、地層や植物化石の研究も参考にしました。こ

## 恐竜調査隊が行く

岡山理科大学恐竜学博物館館長 石垣忍



まめ ち しき 豆 知 識

古生物の復元画は研究の進展とともに変わっていきます。それは新しい研究成果を取り入れて、より詳しく、より本当の姿に近づくということ。行きつ戻りつということではありません。芸術家は動物や自然を観察して独特の画風を作るとともに、科学者と協力して復元を仕上げます。



コンピューターで復元画を描く門嶋君

うして縦2匹、横5匹の絵が仕上がりました。5月5日までなぎヒカリアミュージアム(岡山県奈義町)で全長5匹の全身骨格レプリカと一緒に展示中。ぜひ見に来てください。絵も骨もすごい迫力ですよ。開館日時などはなぎヒカリアミュージアムで検索。

### 動画で解説

石垣館長が記事中の恐竜などを解説する動画はQRコードから。

